

紀 要

第 9 号

1 9 9 6 . 3

財団法人滋賀県文化財保護協会

目 次

序

‘廃棄’を考えるー貝塚出土資料の検討にあたっての試論ー〔鈴木康二〕	1
粟津湖底遺跡第3貝塚の貝類採取活動ーセタシジミの成長速度と年齢構成ー〔稲葉正子〕	11
大津市粟津湖底遺跡出土の錘〔瀬口眞司〕	16
篋状木製品の用途について〔松澤 修〕	25
縄文晩期土器棺墓の調査方法についてー近畿地方の場合ー〔中村健二〕	38
近江における弥生社会の理解にむけてーその方法と課題ー〔大崎康文〕	42
長浜市域における弥生時代の石器ー今川東遺跡出土石器を中心にー〔稲葉隆宣〕	51
石組みの煙道を持つカマドー古代の暖房施設試論ー〔上垣幸徳・松室孝樹〕	57
集落遺跡出土の鉄製品についての研究ノート〔田井中洋介〕	79
近江へのアプローチ・その3ー野洲・栗太をフィールドにー〔近江歴史クラブ〕	85
1. 野洲川流域の前・中期古墳について〔鈴木桃代〕	89
2. 栗太・野洲における後期古墳の類型的把握 ー古墳時代システム論への墓制的アプローチー〔細川修平〕	94
3. 集落遺跡から見た古墳時代の特質ー古墳時代システム論への予察ー〔細川修平〕	102
4. 栗太・野洲郡における掘立柱建物データの抽出と分類〔神保忠宏〕	110
5. 近江国の古代駅路と官衙遺跡について〔内田保之〕	122
6. 古代における琵琶湖の湖上交通についての予察〔畑中英二〕	130
7. 田原道をめぐる二つの地域〔重岡 卓〕	136
8. 近江における玉造りをめぐって〔中村智孝〕	149
9. 栗太・野洲郡における古代の土器様相〔畑中英二〕	157
10. 鉄鉱石の採掘地と製鉄遺跡の関係についての試論 ー滋賀県の事例を中心にー〔大道和人〕	164
栗太・野洲郡のまとめ	179
大津北郊白鳳寺院の造営計画（その1）〔仲川 靖〕	185
古代遺跡と出土文字資料〔濱 修〕	200
石山国分遺跡出土瓦の覚書〔平井美典〕	208
巡礼者の宿ー鴨田遺跡出土の巡礼札よりー〔重田 勉〕	215
焼物二話〔稲垣正宏〕	220
蒲生稲寸氏についてー近江古代豪族ノート5ー〔大橋信弥〕	224
律令神話に於ける農業神について〔造酒 豊〕	233

日本古代の対外関係史の一様相

-日本古代史研究ノートあるいは覚書その2-〔芝池信幸〕	238
遺跡の撮影〔阿刀弘史〕	243
新聞報道にみる文化財保護25年-新聞記事データベースの作成と利用-〔中川正人〕	252

野洲川流域の前・中期古墳について

鈴木 桃代

1. はじめに

現在の野洲川を中心に右岸、左岸の古墳について前期、中期と分け、時期は『前方後円墳集 成』の編年基準に従い1～4期までを前期、5～7期を中期とした。ただし、中期の中で、いわゆる「古式小古墳群とその盟主墳」に該当するものは今回の考察からは除外した。⁽¹⁾

さらに、弥生時代の方形周溝墓は、弥生時代後期になれば次第に数が減少し、その現象と前後して弥生墳丘墓が出現してくる。近江、特に野洲、栗太郡においては、その一つである前方後方型周溝墓が目立つ存在である。古墳時代を考えるうえでもこの存在は重要であると考えられ、これを「プレ」の時期（古墳以前）として扱う。

今回の対象地域は右岸を現在の野洲町、中主町までとし、左岸は栗東町、守山市、草津市、大津市の瀬田川までとした。

2. 主要古墳の様相

(1) プレー古墳以前

前方後方型周溝墓は右岸・左岸ともに確認できる。しかし、現時点では右岸2基、左岸7基で、左岸がより活発にこの墓制を営んだものと判断できる。加えて、左岸でのあり方を見れば、前方後方型周溝墓を造営する集団が複数存在すると考えるべき状況が指摘できる。それぞれの造営集団の関係については、判断する資料を欠くが、少なくとも左岸地域として一つの首長墓を造営する状況ではなかったと判断して大過無いであろう。

なお、野洲町富波古墳については、出土土器から古墳時代前期に造営時期が求められる。しかし、墳形、特に周溝は定型化した前方後方墳との差異が大きく、前方後方型周溝墓から前方後方墳への過渡期の最終段階とした。

(2) 前期

左岸の古墳の分布が栗太郡の岡山古墳から大津市の織部古墳までと広がっているのに対して、右岸は大岩山周辺に集中して存在する。

前方後円墳は、大塚越古墳（消滅）と亀塚古墳（地割りより推定形）の2基が確認されており⁽²⁾、前方後方墳としては灰塚山1号墳が知られている。すなわち、前方後円墳と前方後方墳は左岸にのみ存在する。そして、灰塚山1号墳を同じ前方後方墳である大津市皇子山1号墳と同時代であると考えれば、灰塚山1号墳－亀塚古墳－大塚越古墳、という系譜を想定することが可能であり、一地域の首長墓を連続的に造営している点で、プレの状況とは大きく異なっている。

さらに、個々の古墳の出土品についても興味深い事実が指摘できる。三角縁神獸鏡は、第2番

山林古墳、大岩山古墳、古富波山古墳、⁽³⁾亀塚古墳、岡山古墳、織部古墳から出土し、腕飾類は、北谷11号墳、山の上古墳、下味古墳、毛利古墳から出土している。埴輪を持つ古墳は、地山2号墳、北谷11号墳、追分古墳、下味古墳がある。この様に三角縁神獸鏡、腕飾類、埴輪を重複して持ち合わせる古墳は少なく、下味古墳が腕飾類と埴輪を合わせ持つものに過ぎない。特に、本来ならセットになるはずの腕飾類と三角縁神獸鏡を合わせ持つ古墳は確認されていない。

こうした事実は、主要な副葬品が古墳ごとに持ち分けられていた可能性を示しており、この地域が副葬品で表現されるような何らかの機能に分割されていたと考えることが可能となる。これは前提として地域が一つにまとまっていたと判断でき、そうした一つのまとまりが、地域の首長墓を連続的に造営できた背景になるものと思われる。ただし、前方後円墳である亀塚古墳や大塚越古墳においても副葬品の持ち分けが存在し、地域の構造は必ずしも単純なものではない。

(3) 中期

右岸は、大塚山古墳1基に対して、左岸は栗太郡栗東町安養寺と岡に複数存在する。これは依然として左岸がより主体的に古墳を造営した事実を示すものであろう。

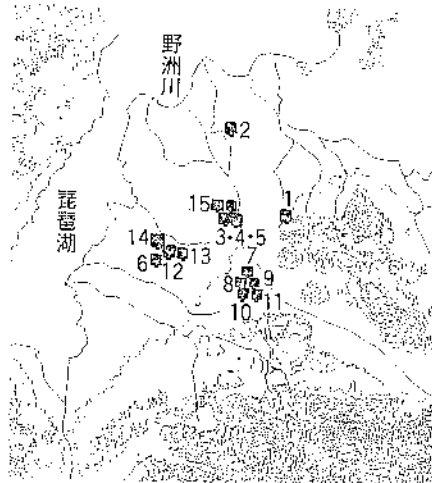
墳長70m以上という地域で群を抜く規模を持つ帆立貝型古墳に注目すれば、地山1号墳—椿山古墳—大塚山古墳と続いて営まれている可能性が考えられる。また、首長墓の墳形が前期は前方後円墳であったものが帆立貝型古墳に変わった点にも注意を要する。加えて、右岸に大塚山古墳が造営されている事実から、この段階になって野洲川右岸・左岸が、一つの地域であることをより明確に示してきたといえる。何れの古墳も、埴輪、葺石を備え、また椿山古墳からは、前方部埋葬であるが多くの鉄製品の副葬品を持っており、こうした地域の首長墓の性格の一端を見ることができるといえる。

また円墳ではあるが新開1号墳においては、武具・馬具と最先端で豊富な副葬品を備えている。これは新開1号墳が、地域の首長墓の下で最新式の武具・馬具を入手することができる立場にあったと考えられ、前期でみた副葬品による地域の機能分化の延長でとらえられるかもしれない。今後の資料の増加を待って考えたい。

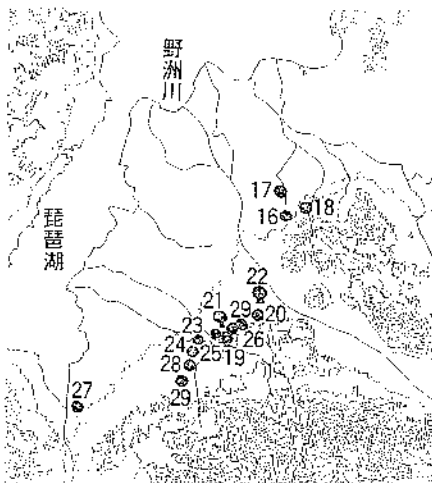
3. おわりに

ブレでは、右岸・左岸ともに造墓集団が分散しているが、前方後方型周溝墓の数から左岸がより活発に造墓している傾向がある。前期になると左岸では、前方後円墳や前方後方墳を造営している。そして、この首長墓とその他の円墳に明確な副葬品の持ち分けが存在していることがこの野洲川流域の特異なところであり特徴でもある。中期には、右岸に大塚山古墳を造営しており、野洲川流域の首長墓を右岸にも造営できるようになったことや、新開1号墳に副葬された最新式の武具・馬具をも持ち分けの対象にしていたことを評価したい。

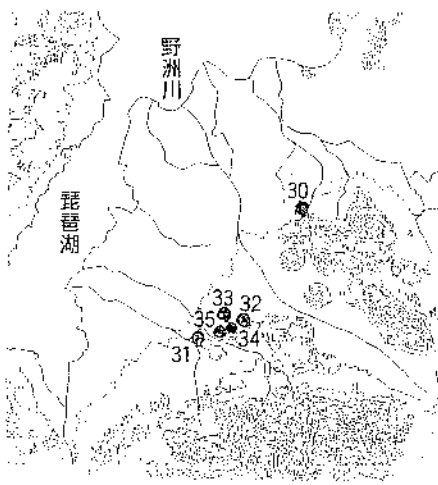
前、中期を通して野洲川流域の首長墓が、灰塚山1号墳から6基連続して造営している点については、野洲川流域という地域の中で微視的に見ると首長墓が一ヶ所に延々と造墓されるのでは、



ブレ(古墳以前)



前期



中期

第3図 野洲川流域主要古墳分布図
番号は主要古墳一覧と同じ

なく、地域の中でも場所が移動しているので首長権の持ち回りが存在していたかもしれない。また、前期には墳形が前方後円墳（前方後方墳）であったのが、中期に帆立貝型古墳になった首長権の変化は何に起因するものであるのか、帆立貝型古墳を首長墓とする地域を比較することを今後の課題としたい。

以上のことから、古墳時代には地域性を論じるとき右岸・左岸と区別しがちであるが、野洲川流域においては右岸・左岸と区別する必要はないかもしれない。

註

- (1) 例えば、野洲町亀塚古墳、草津市芦浦古墳、守山市服部古墳群etc
- (2) これについては、前方後円墳ではなく前方部の短い帆立貝型古墳であるという指摘もあり、墳形については流動的である。
- (3) 右岸の三角縁神獣鏡を大量に出土した古墳は、調査前に鏡が出土していたり、調査が大正年間で古く、他の出土品は明確でない。

参考文献

- 『前方後円墳集成』山川出版社 1992年
『栗東の歴史 第4巻 資料編』栗東町役場 1994年
『野洲町史 第1巻 通史編』野洲町 1987年
『草津町史 第1巻』草津市役所 1981年
梅原末治「近江国野洲郡小篠原大岩山の一古墳調査報告書」『考古学雑誌』12-1、2 1921年
梅原末治「栗太、野洲両郡に於ける二・三の古式墳墓の調査報告」『考古学雑誌』12-3 1921年
『滋賀文化財だより』166 1991年
用田政晴「三つの古墳の墳形と規模」『紀要』第3号 (財) 滋賀県文化財保護協会 1990年

番号	古墳名	所在地	墳形	総長	墳長	後円形	内部施設	外部施設	時期	その他
1	直波	野洲郡野洲町首波	前方後方	52	42	20	墓坑		ブレ	
2	湯ノ部	野洲郡中主町西河原	前方後方						ブレ	
3	益洲寺1号	守山市吉良字アゴ	前方後方	29	24	13			ブレ	
4	益須寺3号	守山市吉良字アゴ	前方後方		9	7			ブレ	
5	益須寺SX	守山市吉見字アゴ	前方後方	28	24	13			ブレ	
6	塚之越	守山市古高町字塚之越	前方後方	不明					ブレ	
7	辻A地点	栗太郡栗東町辻	前方後方						ブレ	
8	辻B地点	栗太郡栗東町辻	前方後方	40					ブレ	前方部のみ検出
9	辻B地点	栗太郡栗東町辻	前方後方		16	12	組み合わせ木棺		ブレ	
10	高野SX1	栗太郡栗東町高野	前方後方		10	13			ブレ	
11	高野SX2	栗太郡栗東町高野	前方後方	23	21	13			ブレ	
12	織SX1	栗太郡栗東町織	前方後方		13	9			ブレ	
13	織SX5	栗太郡栗東町織	前方後方		16				ブレ	
14	横江SX3	守山市横江町	前方後方		11	8			ブレ	
15	経田	守山市今宿町	前方後方						ブレ	
16	第2番山林	野洲郡野洲町大岩山	円	不明			粘土槨		前期	
17	古富波山	野洲郡野洲町富波	円	30	30		木棺直葬		前期	
18	大岩山	野洲郡野洲町小篠原	円	不明			粘土槨		前期	
19	灰塚山	栗太郡栗東町川辺	前方後方						前期	
20	岡山	栗太郡栗東町六地藏	円	20	20				前期	
21	大塚越	栗太郡栗東町安養寺	前方後方		75		粘土槨		前期4	
22	亀塚	栗太郡栗東町出庭	前方後方	44+			粘土槨		前期	
23	地山2号	栗太郡栗東町安養寺	不明	不明				埴輪	前期	
24	下戸山	栗太郡栗東町安養寺	円	45	45				前期	
25	下味	栗太郡栗東町川辺	円	35	35		粘土槨(第1、2)	埴輪、葦石	前期	
26	山の上	栗太郡栗東町安養寺	不明	不明			粘土槨		前期	
27	織部	大津市大草	円	20	20				前期	
28	北谷1	草津市山寺町北谷	円	32	32		粘土槨、割竹形木棺		前期4	
29	遠分	草津市遠分	円	60	42		粘土槨	埴輪	前期3	
29	毛刈	栗太郡栗東町安養寺	不明	不明			粘土槨		前期	
30	大塚山	野洲郡野洲町辻	帆立貝形	110	72	56			中期	
31	地山1号	栗太郡栗東町岡	帆立貝形	111	89	67		埴輪、葦石	中期	
32	山寺屋敷	栗太郡栗東町安養寺	不明	不明					中期	
33	椿山	栗太郡栗東町安養寺	帆立貝形	135	99	75	棺直葬	埴輪、葦石	中期5	前方部のみ検出
34	新開1	栗太郡栗東町安養寺	円	36	25		木棺直葬(南、北遺構)	埴輪	中期6	
35	新開2	栗太郡栗東町安養寺	円	25	25		木棺直葬	埴輪	中期6	

表1 湖太・野洲郡 ブレ・前期・中期古墳一覽

編 集 後 記

この冬は、久しぶりに雪の多い年となり、外での調査では寒さに堪える日々を過ごされたことと思います。今年は当協会設立25周年にあたり、日頃の調査や普及活動に加え、安土城考古博物館で、企画展示『いにしへの渡りびと—近江の渡来文化—』や、それと関連したシンポジウムを実施してまいりました。本紀要も25周年ということで、例年にくらべて多くの論考が集まりました。つきましては、多くの方からのご叱正とご指導を賜れば幸いです。 平成8年3月

平成8年3月

紀 要 第 9 号

編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印刷・製本 富士出版印刷株式会社
大津市札の辻4-20
Tel(0775)23-2580 Fax(0775)24-6668